




監査報告書

2022年5月24日

学校法人 酪農学園
理事会 御中
評議員会 御中

監事 小坂橋正 

監事 石川一雄 

監事 佐月正史 

私たちは、私立学校法第37条第3項に基づく監査報告を行うため、学校法人酪農学園寄附行為第16条の規程に従い、学校法人酪農学園の2021年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の、学校法人の業務、財産並びに理事の業務執行状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、学校法人酪農学園監事監査規程に準拠し、私たちが必要と認めた監査手続を実施した。その結果を下記のとおり報告する。

1. 監査方法の概要

私たちは、随時、理事会および評議員会に出席したほか、理事などから業務の執行および財産状況についての報告を聴取し、かつ、関係書類の閲覧など必要と認められる方法を実施し、業務の妥当性を検討し財産状況を調査した。

また、監査法人ライトハウスから、会計監査の計画、方法、監査品質に関する方針並びに監査報告を受け、計算書類の正確性を検討した。

2. 監査の結果

学校法人酪農学園の業務に関する決定および執行は概ね適切であり、計算書類、すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書および貸借対照表は、学校法人会計基準並びに関連諸規定に沿って適正に処理されており、業務または財産、理事の業務執行に関しても不正の行為、または、法令若しくは学校法人酪農

学園寄附行為に違反する重大な事実は認められない。

2021年度決算は、後援会事業の継承による寄付金により経常収支差額は黒字が確保されているが、2022年度予算はイーブ認証取得に向けた投資や人件費増により大きなマイナスが見込まれている。今後は、獣医学群のプラスにより農食環境学群や高校の赤字を補填することは厳しいことが想定される。

コロナ禍や入学者数の減少等、外部環境は大きく変化しているため、現在進めている高校の収支改善やイーブ認証取得に向けた費用増を踏まえ、2020年度に策定した中期計画のローリングを行ない、これを実行に移すことにより収支均衡への道筋をつけることが望まれます。

以上